

Contents

第5土曜特集

脳科学研究が推進する うつ病の病態・診断・治療の発展

1017 はじめに 朴 秀賢

病 態

1020 うつ病のゲノム研究とその臨床応用 藤野淳也・他

1025 うつ病の内分泌的研究——コルチゾールを中心に 中川 伸

1029 古くて新しいうつ病の病態仮説：モノアミン仮説 山脇洋輔・山脇成人

1036 うつ病の神経可塑性仮説——海馬の組織学的変化を中心に 森信 繁

1041 うつ病の神経細胞新生仮説 朴 秀賢

1047 うつ病の炎症仮説 岩田正明

1055 うつ病の病態におけるエピジェネティクス 宮城達博・淵上 学

1059 うつ病とアストロサイト 梶谷直人

1065 脳の免疫細胞ミクログリア——うつ病の鍵を握る隠れた存在？ 古賀農人

1071 逆境的養育体験のうつ病に与える影響とそのメカニズム 戸田裕之

1079 慢性ストレスによる行動変容の個体差を創発する分子・神経回路メカニズム 内田周作

1083 高齢者のうつ病——老化・認知症との関連性 馬場 元

診断

- 1088 うつ病における構造MRI研究 原田 舟・松尾幸治
- 1092 うつ病治療のバイオマーカーとしてのガンマオシレーション 田村俊介・他
- 1098 fNIRSとうつ病 金沢徹文
- 1102 うつ病の血液バイオマーカー：mRNA 伊賀淳一
- 1108 うつ病におけるmicroRNAの役割，バイオマーカーの可能性 吉野祐太
- 1114 DNAメチル化に着目したうつ病の治療反応バイオマーカー研究 吉田朋広・沼田周助
- 1120 うつ病の血液バイオマーカー：テロメア 越智紳一郎
- 1125 うつ病の病態における
脳由来神経栄養因子(BDNF)とインターロイキン6(IL-6) 吉村玲児
- 1129 うつ病の血液バイオマーカーを探索する——メタボロミクス 松島敏夫・他
- 1134 うつ病の音声バイオマーカー 徳野慎一・他

治療

- 1140 抗うつ薬の歴史と最近の進歩 竹林 実
- 1146 うつ病のプレシジョンメディスンの実現に向けて 島本優太郎・加藤正樹
- 1153 うつ病治療における補完代替療法の可能性 清水雄一郎・他
- 1163 うつ病治療における電気痙攣療法(ECT)：
歴史・作用機序・有効性と安全性 青木宣篤・他
- 1174 高出力ECT機器をどのように使うか 安田和幸・野田隆政
- 1180 うつ病におけるrTMS療法 高橋 隼
- 1184 経頭蓋直流電気刺激(tDCS)によるうつ病治療の現状と展望 西田圭一郎



- 1190 脳科学研究が指し示すうつ病の認知行動療法の未来 大久保 亮
- 1196 うつ病治療における栄養学的配慮 功刀 浩
- 1202 睡眠障害に着目したうつ病治療 新里輔鷹・高江洲義和
- 1207 次号の特集予告



サイドメモ

- 1021 ゲノムワイド関連解析 (GWAS)
- 1031 計算論的精神医学 (computational psychiatry)
- 1037 Neuropil
- 1061 グリンパティックシステム
- 1062 グリオトランスミッター
- 1066 コロニー刺激因子1受容体 (CSF1R)
- 1068 スパインヘッドフィロポディア
- 1068 C3/C3aR経路
- 1074 エピジェネティック修飾
- 1074 HPA(視床下部-下垂体-副腎皮質)軸
- 1120 ミトコンドリアと細胞老化
- 1122 うつ病の精神療法
- 1135 フォルマントと韻律
- 1153 補完代替療法 (CAM)
- 1176 発作閾値
- 1179 右片側性ECTの有効性と安全性
- 1180 うつ病へのrTMS療法
- 1201 現代生活において意識して摂るべき食材